

## 高梁市の農業

## 現状とその取り組み

市の農業は、中山間地域に位置するため、一農家当たりの経営耕地面積は小さく、生産性も低くなっています。こうした不利な地勢に加え、主要作物である米価格の下落や産地間競争の激化、農業従事者の高齢化や後継者不足などから耕作放棄地も増えるなど厳しい状況にあります。今月号では、このような条件の中で展開されている農業を取り上げます。

## 数字で見る市の農業

市の平成18年の農業産出額は、92億7000万円と県下第3位となっています(表①)。その内訳で、最も多いのが60%を占める肉用牛・乳用牛や養鶏等の畜産で、次に果実、米、野菜がそれぞれ10%余りとなっています(グラフ①)。このことから、市の農業生産額としては畜産が主体といえますが、その約8割が企業経営を中心とする養鶏によるものです。

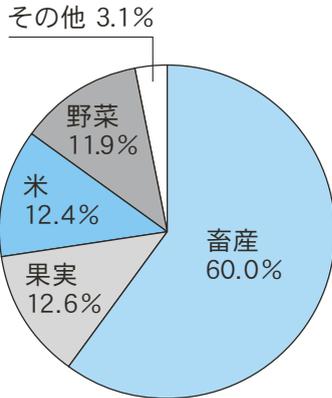
経営耕地面積からは、米、果実、野菜などが中心といえ、特にブドウとトマトについては、共に県下最大の産地となっています(表②)。ブドウについては、ピオーネの作付けを積極的に推進するとともに、販売促進活動を行っています。トマトは、備中町に最新の設備を導入した選果場が整備され、効率的な選果作業により有利販売につながっています。

しかし、総農家戸数の推移を見ると、平成2年には5837戸だったのが、平成17年には4224戸と15年間で3割近く減少し(グラフ②)、特

■ 農業産出額県内ランキング(表①) (単位:千万円)

	米	野菜	果実	畜産	その他	計
岡山市	926	419	367	346	223	2,281
倉敷市	304	217	396	283	61	1,261
高梁市	115	110	117	556	29	927
真庭市	223	139	41	364	54	821
津山市	323	71	18	288	48	748

■ 高梁市の農業産出額内訳(グラフ①)



■ ピオーネ・トマト作付面積県内ランキング(表②)

ピオーネ

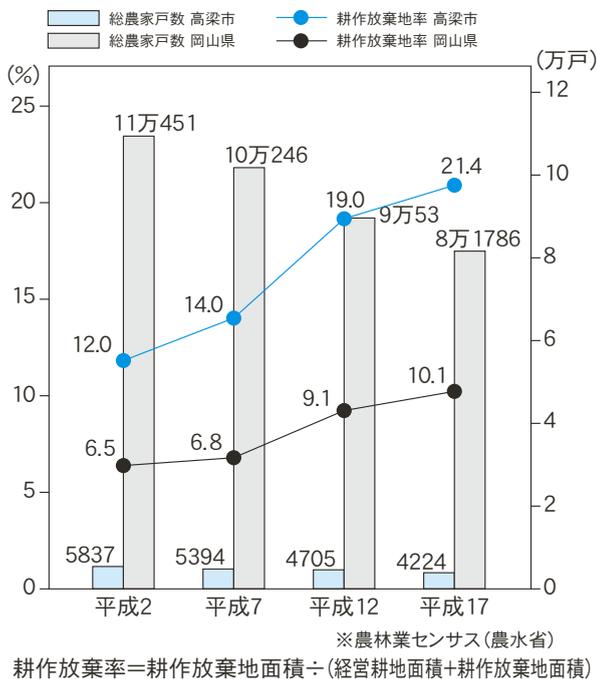
	作付面積 (ha)	県内割合 (%)
高梁市	132	14.6
岡山市	131	14.5
新見市	89	9.8
井原市	78	8.6
津山市	71	7.8

トマト

	作付面積 (ha)	県内割合 (%)
高梁市	26	19.7
真庭市	18	13.6
新見市	16	12.1
津山市	9	6.8
岡山市	8	6.1

※上記表・グラフは岡山農林水産統計年報(平成18年)

■ 総農家戸数と耕作放棄地率の推移(グラフ②)



に農産物の販売を行った農家は50%近く減少するなど、自給的な農家の割合が増加しています。次に、経営耕地面積に対する耕作放棄地の割合を見ても、平成2年には12.0%だったのが、平成17年には21.1%と増加しています。市が昨年行った調査では、ほ場整備済みの農地でも、その約10%の農地が耕作されていない実態が明らかになりました。

このように、市の農業を取り巻く環境は過疎化や高齢化、それに伴う労働力不足による経営耕地面積の減少と耕作放棄地の増加など、多くの問題を抱えています。

こうしたことから農産物の販売農家の減少を食い止めるために、農業の担い手や優良な農地をいかにして確保するかが緊急の課題となっています。